

ただ
種田

さんとう か
山頭火 (1882~1940)



俳人。山口県佐波郡西佐波令村(現、防府市)出身。本名は正一。山口県尋常中学校(現、山口県立山口高等学校)時代から文学に傾倒、32歳で荻原井泉水に師事し、自由律俳句誌『層雲』に出句した。大正14(1925)年、熊本の報恩寺で出家して味取観音堂の堂守となったが、1年余でこれを捨て行脚に出る。九州・中国などを中心に全国各地を行脚した後、一時山口県吉敷郡小郡町(現、山口市)の其中庵に居住したこともあるが、晩年は松山市の御幸寺門外の一草庵に入った。一草庵では句友たちが「柿の会」を結成して句会を開き、昭和15(1940)年4月に、山頭火の俳句人生の集大成ともいえる句集『草木塔』を発刊した。山頭火は、一草庵で「ころり大往生」を遂げて急死するまでに、約16,500余の優れた作品を残し、漂泊の俳人として知られた。

略歴

明治15(1882)年12月3日	山口県佐波郡西佐波令村に、種田竹治郎の長男として生まれる。
明治32(1899)年	山口県尋常中学校4年級に編入
明治35(1902)年9月	早稲田大学文学部に入学
明治37(1904)年2月	早稲田大学文学部を神経衰弱のため中退。7月に帰郷
大正2(1913)年	荻原井泉水に師事し、『層雲』に投句を始める。
大正5(1916)年4月	種田家が破産。妻子を連れて熊本市に移る。
大正8(1919)年10月	单身東京に出る。一時、東京市職員になる。
大正14(1925)年2月	熊本の報恩寺で出家
3月5日	熊本県鹿本郡植木町味取(現、熊本市)の観音堂(瑞泉寺)の堂守となる。
昭和2(1927)年	四国霊場を巡礼する。そのまま、同4年まで中国・北九州地方を行脚
昭和7(1932)年9月20日	行脚の末、山口県吉敷郡小郡町矢足に其中庵を作り居住
昭和10(1935)年	北九州地方から関東甲信越・東北・北陸と行脚して回る(翌11年まで)。
昭和14(1939)年9月27日	四国霊場巡礼の旅に出る。
12月15日	松山市の御幸寺門外の一草庵に居住
昭和15(1940)年4月	句集『草木塔』発刊
10月11日	前夜開かれた「柿の会」の後泥酔して眠り、早朝心臓麻痺のため59歳で永眠。墓所は山口県防府市本橋町の護国寺

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・種田山頭火『草木塔』 八雲書林 1940年
- ・種田山頭火『定本山頭火全集』 春陽堂書店 1972~73年
- ・大山澄太『俳人山頭火の生涯』 彌生書房 1983年
- ・鴻池楽斎・稲垣恒夫『精選山頭火遺墨集』 思文閣出版 1993年
- ・大山澄太『山頭火著作集』 潮文社 1996年
- ・「種田山頭火 人と作品」編集委員会『えひめ発百年の俳句-郷土俳人シリーズ⑥ 種田山頭火 人と作品』 愛媛新聞社 1998年
- ・河野啓一『山頭火周到なる放浪』 アトラス出版 2000年
- ・村上護『種田山頭火』 ミネルヴァ出版 2006年
- ・坪内稔典・東英幸『山頭火百句』 創風社出版 2008年

〈ゆかりのある場所〉…(P311, 191~192)

〈関連施設〉…其中庵

〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1811番地 TEL: 083-973-7071

くまもと文学・歴史館

〒862-8612 熊本県熊本市中央区出水2丁目5番1号 TEL: 096-384-5000

一草庵

〒790-0824 愛媛県松山市御幸1丁目435-1 TEL: 089-948-6891